

2024年3月実績概要（メモ）

（2024. 4. 18）

定修時期に入ったこともあり、エチレンをはじめ、各誘導品、芳香族製品の減産が顕著となる。

1. 生産動向

イ) エチレン 406, 100トン

前月比 ▲ 9. 4% (▲42,000トン)

前年同月比 ▲12. 0% (▲55,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 6. 9%	—
定修要因等	▲13. 6%	▲11. 3%
能力増減	—	—
稼働率変動	▲2. 7%	▲0. 7%
生産増減率	▲9. 4%	▲12. 0%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月80. 7% → 当月78. 7% ← 前年同月79. 2%

定修プラント：前月なし → 当月2社2プラント ← 前年同月1社1プラント

令和5年度(会計年度) エチレン生産量 5,270. 8千トン、前年度比▲3. 6%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加があったが、定修規模差等からHDPE、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、SBR、ベンゼン、キシレンなどの13品目がマイナス。LDPE、MMAモノマー、AN、BRの4品目のみはプラスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、PP、PS、EG、BRなどの8品目がプラス。HDPE、SM、EO、AN、SBR、トルエン、キシレンなどの9品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の増加と定修規模の差からLDPEのみはプラスとなったが、HDPE、PP、PSはマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から、LDPE、PP、PSはプラス。HDPEは主に定修規模差からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドとしては、改善傾向が続いているものの、国内の生産活動は、年初より自動車工業等の生産の伸びが低下していた。3月の予測では上昇予測がだされているほか、生産のマインドとしても強気トレンドの傾向が続いている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、ユーザー側の稼働日の増加や原料をはじめ各種コストの上昇に伴う先高感もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。前年比は、LDPE、HDPE、PP、PSのいずれも前年を下回る状況となった。

分野別の出荷動向に関しては、フィルム等の包材分野は、LDPE、HDPE、PP、PSで前年を下回る状況が続いている。包材以外の分野では、HDPEの射出成形分野がほぼ前年並みとなったが、LDPE、PPでは、ほとんどの分野で出荷が減少しており、特にPPの射出成形分野の出荷は年初来3ヵ月連続してマイナスとなった。PSは前月の電機・工業分野の出荷増加の反動減がみられたのをはじめ、包材以外のいずれの分野でもマイナスとなった。

ハ) 輸 出

極東市況はナフサ市況の上昇や域内の原料エチレンの定修が続くこともあり、樹脂の市況は上昇傾向が見られているが、国内向けの出荷との兼ね合いもあり、増減はまちまちの状況となった。

前月比は、HDPE、PPはプラス、LDPE、PSはマイナス。前年比は、PPのみがプラスとなった。

ニ) 在 庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPEは減少、PP、PSは増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PP、PSで上昇し、在庫水準もLDPE、HDPE、PP、PSとも高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LDPE	▲9, 400	3. 6	4. 0
HDPE	▲8, 400	3. 6	3. 7
P P	+1, 600	3. 4	3. 8
P S	+3, 900	1. 7	2. 2